令和7年1月

秦野市 防災マップ

ー西・上地区ー

地震時の避難場所

○一時（いっとき）避難場所（自治会避難場所）

大規模地震が発生した場合には、自治会の組やブロックごとに集合して安否確認を行います。防災マップ上に自分の一時避難場所を記入して確認しましょう。

○私の避難場所

地震時の避難場所は、市内小中学校及びカルチャーパーク総合体育館の23カ所です。防災マップを見て、避難場所を確認しましょう。

秦野市で想定される地震

秦野市地域防災計画

秦野市地域防災計画は、災害対策基本法第42条第1項の規定に基づき、昭和40年5月21日に策定しました。現在、国の防災基本計画や神奈川県地域防災計画との整合を図るとともに、大規模災害の教訓などから、秦野市防災会議で検討を加え、必要な見直し・修正を行っています。

本計画は、神奈川県地震被害想定調査で想定されている地震のうち、発生の切迫性があり、特に秦野市において、大きな被害が懸念されている都心南部直下地震、神奈川県西部地震及び南海トラフ巨大地震を当面の目標として災害応急対策の充実を推進しています。

想定される地震による被害

神奈川県の調査を基にした都心南部直下型、神奈川県西部、南海トラフ巨大地震による被害想定は次のとおりです。

		都心南部直下地震	神奈川県西部地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震(参考)
予想震度		震度５弱～６強	震度４～６弱	震度５弱～５強	震度６弱～７
建物被害	全壊棟数	３００棟	２０棟	１０棟未満	１８,２２０棟
	半壊棟数	２,８４０棟	５００棟	３３０棟	１０,９４０棟
火災被害	出火件数	１０件未満	０件	０件	８０件
	焼失棟数	３０棟	０棟	０棟	６,２９０棟
死傷者数	死者数	２０人	１０人未満	１０人未満	９１０人
	重症者数	３０人	１０人未満	１０人未満	４９０人
	中等症者数	２６０人	７０人	６０人	３,２００人
	軽症者数	４１０人	１１０人	９０人	３,３６０人

出展：「神奈川県地震被害想定調査」（平成２５～２６年度調査）

震度と揺れ等の状況（概要）

地震の発生や緊急地震速報を見聞きした場合には、あわてず、まず身の安全を!!

◎ 頭を保護し、ドアを開け、玄関など安全な場所に避難する。
◎ あわてて外に飛び出さない（落下物や車が危険）。
◎ 揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
◎ 門や塀、自動販売機のそばには近づかない。
◎ 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速する。

建物の耐震化や家具類の転倒防止など、日ごろから地震に備えましょう!!

4

［震度４］
●ほとんどの人が驚く。
●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
●座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱

［震度５弱］
●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
●棚にある食器類や本が落ちることがある。
●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強

［震度５強］
●物につかまらないと歩くことが難しい。
●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
●固定していない家具が倒れることがある。
●補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱

［震度６弱］
●立っていることが困難になる。
●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

［震度６強］
●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや傾斜地の崩壊が発生することがある。

7

［震度７］
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

※気象庁発表の震度階級の解説による

情報伝達方法

防災行政無線

地震の情報や緊急情報を市内の防災行政無線から放送します。

市公式LINE

緊急情報メールで発信した内容や自分が住む地域の避難所、防災マップを確認することができます。

アカウントをお持ちの方は、二次元コードから友だち登録をお願いします。

危機管理X

防災・犯罪に関する情報を危機管理情報としてツイートしていますので、アカウントをお持ちの方は、フォローをお願いします。

@hadanokikikanri

テレフォンサービス

防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。24時間以内に放送した最新の内容を聞くことが可能です。

☎0120-540-822

総合防災情報システム

災害情報や河川カメラ等の情報を確認できます。

プッシュ型配信サービス

防災行政無線や緊急情報メールを配信した内容を電話やFAXに自動で音声や文字情報を伝えます。配信希望の場合は、申請書の提出が必要となりますので、防災課までお問い合わせください。

☎0463-82-9621

緊急情報メール

市民の安全・安心を確保するため、緊急性の高い情報を携帯電話に向けメール配信しています。この緊急情報メールは、登録制のメールシステムとなります。

登録方法等については、下記URLもしくは右記二次元コードから配信システムサイトをご確認ください。

緊急情報メールの登録
http://hadano-city.site.ktaiwork.jp/?page_id=10

二次元コード

家族の防災ルール

家族での話し合いと準備

災害時に家族があわてず行動できるよう、家族の防災会議で話し合い、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

ルール1 避難ルートを決める

家族で避難場所を確認し、自宅からの避難ルートを決めます。

不測の事態で避難ルートが使えない場合もあるので、複数の避難ルートを考えましょう。

ルール2 役割分担を決める

避難に時間がかかる方の支援方法を決めましょう。避難するときには、張り紙や書き置きをする方法を決めましょう。

避難時に誰がどの持ち出し品を持ち出すかなどの役割分担を決めておきましょう。

ルール3 身を守る方法を確認

とっさの時に身を守る方法を家族みんなで確認しておきましょう。

家具の多い部屋や少ない部屋など、家の中の危険な場所と安全な場所を確認しましょう。災害時に玄関がふさがれた場合に備え、玄関以外の避難口を考えておきましょう。

ルール4 持ち出し品の準備

災害時に家族で必要になる物について話し合い、予備のメガネや常用薬など個人で必要になるものも準備しましょう。

持ち出し品や備蓄品の賞味期限、携帯ラジオや懐中電灯に故障がないか定期的にチェックしましょう。

ルール5 連絡先・連絡方法

災害時に家族が離ればなれになった場合に落ち合える集合場所を決めておきましょう。家族同士で電話がつながらない場合に備えて、知人や親戚の連絡先を決めておきましょう。

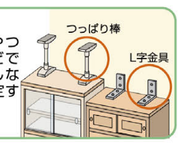
災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の「災害用伝言板」の使い方をみんなで確認しましょう。

自宅でできる地震への備え

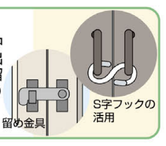
室内の安全対策をしましょう

地震で家具が転倒すると出入口がふさがれたり、室内に物が散乱して避難の妨げになったりするだけでなく、下敷きになって命を落とすことにもなります。地震から身を守るには、家具の固定や配置の工夫など室内の安全対策が重要です。

家具
L字金具やつっぱり棒などで家具が転倒しないように固定する。

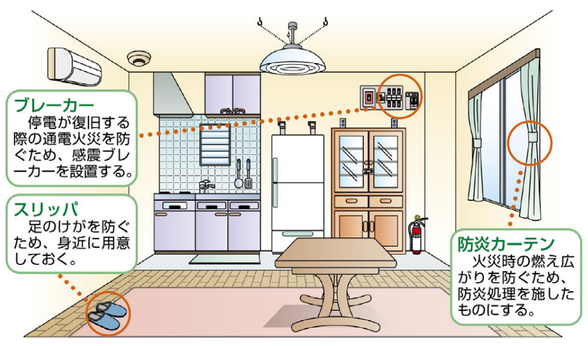


戸棚・扉
扉が開いて中の食器が飛び出ないように、留め金具等を取りつける。



窓ガラス
ガラスが割れた場合の安全対策として、飛散防止フィルムを貼る。

耐震マット
粘着性やクッション性がある耐震マットで家電や家具を固定する。



家庭で備えておくと便利なもの

基本となる持ち出し品の例

災害時に救援物資が届くまで、最低3日間（推奨1週間）は生活できるように準備しておきましょう。

避難所に避難することも想定し、持ち出しやすいようにリュックサックにつめておいたり、保管場所をまとめておいたりすると便利です。

水	3日分（1人1日3リットルが目安） 飲料水とは別にトイレを流したりする生活用水も必要です。
食料品	3日分（ご飯、カップ麺、缶づめ、ビスケット、板チョコなど）
生活必需品	トイレットペーパー、ティッシュペーパー、簡易食器、食品用ラップ（保温などにも活用できます。）
貴重品	現金（小銭含む）、貯金通帳、印鑑、健康保険証、年金手帳、マイナンバーカードなど
救急用品	常備薬、ばんそうこう、包帯、消毒液など
清潔品	洗面用具、ウェットティッシュ、携帯トイレ、ハンドジェル、水を使わないもの（シャンプー、歯ブラシ）など
情報確認手段	携帯ラジオ、携帯電話充電器（できれば電池式のもの、合わせて充電ケーブルも備えておきましょう。） 避難場所などが載っている地図（防災マップ）
日用品	衣類、下着、タオル、毛布、使い捨てカイロ、新聞紙、レインコート、スリッパ、弾性ストッキングなど
筆記用具等	ボールペン、メモ用紙、家族等の緊急連絡先、家族の写真など（家族の写真は、はぐれた時の確認用に活用できます。）
乳幼児	粉ミルク、哺乳瓶（消毒セット含む）、紙おむつ、おしりふき、抱っこひも、高密度ポリエチレン袋など
女性	生理用品、化粧品など
高齢者（必要な場合）	老眼鏡、補聴器（予備の電池含む）、紙おむつ、入れ歯洗浄、高齢者用食品（やわらかい食べ物）など
避難時用具	懐中電灯（予備電池含む）、ヘルメット、ホイッスル、敷物、室内履き、軍手か革手袋、毛布又はブランケット、おもちゃ（子供用）など

ローリングストック法

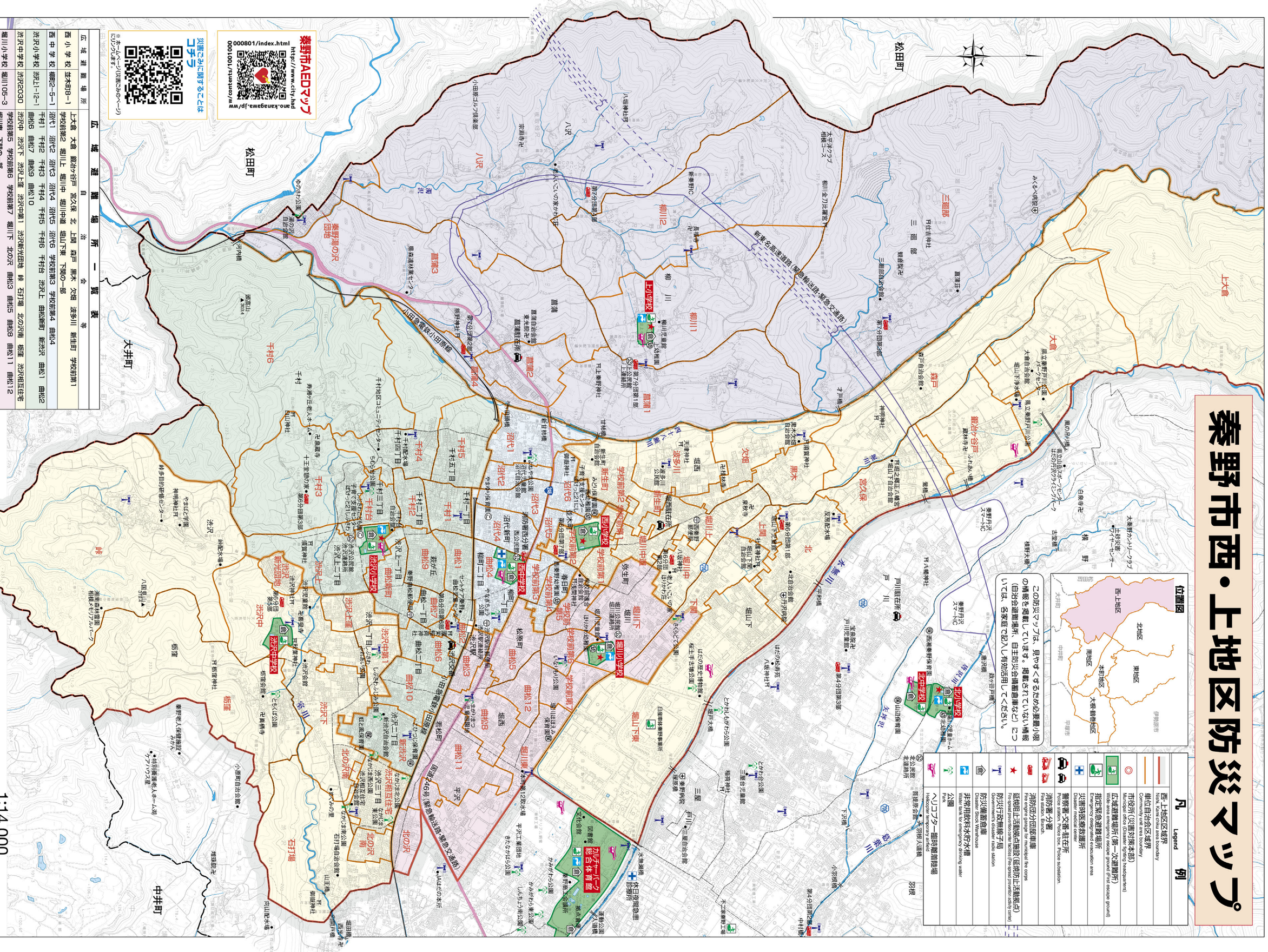
まずはここから食料備蓄！

内閣総理大臣を会長とする中央防災会議が定める「防災基本計画」では、家庭での最低3日間、推奨1週間の食料備蓄の普及を図ることとしています。

家庭での最低3日間、推奨１週間の食料備蓄

防災用非常食を備蓄するのは大変ですが、左の図のように、普段の食料品を少し多めに買い置きし、賞味期限を考えながら消費した分を補充する「ローリングストック法」を実践すれば、手軽に食料備蓄に取り組むことができます。

家族の健康に配慮
高齢者、乳幼児、慢性疾患、食物アレルギーの方などに配慮した食料品を準備しましょう。

家庭用備蓄について、もっと詳細な内容が見たい方は…
「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」
（農林水産省大臣官房政策課　食料安全保障室）

秦野市西・上地区防災マップ